

# 令和7年度 認定こども園 高松東幼稚園 自己点検・自己評価（公表シート）

実施期日〈令和8年3月25日〉

## 1. 本園の教育・保育目標

○**建学の精神** 「研究的幼稚園」「理想的幼稚園」「非営利的幼稚園」

○**教育・保育目標** 「じょうぶな体を育てる・豊かな心を育てる・創造する力を育てる」

○**育てたい子ども像**

- ・少しのことで疲れず、友達と一緒にしんぼう強くよく考えて遊ぶ子
- ・のびのびすることときちんとすることとの両立ができる子
- ・基本的な生活習慣、態度を身に付け、自分に対する自信をもつことができる子

○**保育者の基本的姿勢**

- ・一人一人の子どもが“大切にされている”と実感できるような子どもと保育者の信頼関係を構築すること
- ・時代の変化に対応する教育・保育内容を創意し、それを計画的に環境として構成すること
- ・保育者の特性を生かし、協力体制を生かすチーム保育により、よりきめの細かい保育を目指すこと

## 2. 本年度の重点項目とその設定理由

### 1. 幼保連携型認定こども園としての運営

- 0～5歳児までの連続性のある教育・保育の充実
- 2・3号認定児の教育・保育課程の実践と改善
- 施設・設備の整備
- 円滑な園運営のための人材確保

（設定理由）これまで実践してきた0～5歳児の連続性のある教育・保育課程を更に充実させたい。特に2号認定児の午後からの保育（すみれ組）は人数の増加に対応した運営方法の見直しが求められる。施設・設備の整備とともに、長時間保育や土曜保育、育児休暇職員の代替等に対応するために余裕のある人員の確保が必要となっている。

### 2. 子育て支援事業の推進

- 多様な保育ニーズへの対応
- 未就園児活動の充実

（設定理由）共働き家庭の割合が増加し、長時間保育や長期休業期間の預かりのニーズが更に高まっている。子育て支援の一環として、未就園児活動の充実も求められている。

### 3. 教育・保育の質の向上

- 教育・保育課程や保育環境の見直しと改善
- 教職員の資質向上（園内・外研修の充実）

（設定理由）教育・保育の質を高めるために、日々の実践を振り返りながら既存の教育・保育課程や保育環境を見直し、改善していく必要がある。園内研修を実施し、様々な分野の園外研修にも積極的な参加を促して、常に教職員の資質向上を目指したい。

### 3. 重点項目の取組み状況と自己評価

重点項目		取組み状況	自己評価 (5段階)
1	0～5歳児までの連続性のある教育・保育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園の教育・保育目標に向けて、「教育課程」を含む「教育及び保育の内容に関する全体的な計画」を策定し、教育・保育を実施した。0～2歳児クラスと3～5歳児クラスの保育教諭が十分に話し合う機会を設けることは時間的に難しいが、クラス担任間での引き継ぎによって育ちをつなげられるよう努めた。年度後半には、2歳児クラスの保育として3歳児クラスの保育室での活動を取り入れるなどして、2歳児から3歳児への接続が円滑になるよう取り組んだ。</li> <li>・運動会、お遊戯会等の園行事についても0～5歳児の発達を意識しながら検討し、取り組んでいった。</li> </ul>	4
	2・3号認定児の教育・保育課程の実践と改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すみれ組(午後からの2号認定児と1号認定児の一時預かり)の年少児は教育時間終了後も同じ保育室で過ごすようにしたことで、よりスムーズに生活が進められるようになった。各学年で様々な活動を計画しているが、その日の子どもの人数や他クラスとの兼ね合いによって予定通り進められないことが多くあった。</li> <li>・3号認定児においては、それぞれに好きな遊びを見つけて楽しむことを主としながら、ダンスや運動遊びも計画的に取り入れ様々な資質・能力を育めるようにした。</li> </ul>	3
	施設・設備の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・暑さ対策として、メッシュ日除けパラソルを1張り増設した。</li> <li>・園児の遊びの充実や運動能力の向上を目指し、低年齢児向けアスレチック遊具を購入し、第2園庭に設置した。</li> <li>・遊具の安全点検を専門業者に依頼し、必要な部分は補修した。</li> <li>・通園バスの更新については、メーカーの生産状況等の事情により見送った。</li> <li>・園のインスタグラムを開設し、より充実した情報発信を行った。</li> </ul>	3
	円滑な園運営のための人材確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遅い時間帯に勤務できる非常勤保育教諭の募集を常時行い、年度途中で3名確保できた。学生アルバイトも随時採用した。</li> <li>・次年度に向けて早期に新卒者募集を行い、6名の常勤保育教諭と1名の非常勤保育教諭を採用した。</li> </ul>	4
2	様々な保育ニーズへの対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間を通して0～2歳児は常に定員を満たしており、クラスに空きができれば、待っている人をその都度受け入れた。</li> <li>・共働き家庭の割合が更に多くなり2号認定を希望する保護者が増加し続けていることから、2号認定の定員も増やした。1号認定で一時預かりを毎日利用するケースも多くなり、その他、急遽、延長保育や土曜保育等が必要となった場合も、その都度個別対応し、可能な限り受け入れた。</li> <li>・満3歳児クラスも申し込みが多くあったため、最終的には27名受け入れた。</li> </ul>	4

	未就園児活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・0～2歳の未就園児対象の園庭開放を月曜日の午前中に行い、毎回10～20組の親子の参加があった。</li> <li>・2歳児対象の「たんぽぽ」を毎月1回水曜日の午後を実施し、7月のプール遊び等、季節に応じた活動を体験できるようにした。</li> <li>・年度後半からTJ教室(次年度入園希望2歳児対象)を実施し、毎回10組程度の親子の参加があった。</li> </ul>	3
3	教育・保育課程や環境の見直しと改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムや園行事について、実施後の振り返りを各年齢で丁寧に行い、子どもたちにとっても保育者にとっても無理が生じている場合等には内容を再検討した。大事にするべきことを残しながら、今後も精選していく。環境についても子どもたちの実態に合わせて整えていった。</li> </ul>	3
	教職員の資質向上(園内・外研修の充実)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間で7名の保育教諭が公開保育形式の園内研修を実施した。その他、AEDの使い方についての園内研修を行い、常勤保育教諭15名が参加した。</li> <li>・育児休業中の常勤保育教諭以外の全員が、年間を通して何らかの園外研修に1回以上参加し資質向上に努めた。</li> </ul>	3

#### 4. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
施設・設備の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・0～2歳児が多く使用する第2園庭の整備を更に進める。遊びが充実するよう遊具を増やしていくだけでなく、水道やトイレの設置等、現場の声を聞きながら、より使いやすくするための施設整備を検討する。日陰がないので、暑さ対策(日除けテント等の増設)も必要である。植樹も検討したい。</li> <li>・東館未満児保育室前の人工芝の整備と、北館1階大人用トイレ、東館1階クッキングルーム(保育教諭の休憩スペース等の確保)の改修を検討する。</li> <li>・通園バスの更新を早めに進めていく。</li> <li>・園内のインターネット環境の整備、タブレット端末の利用等を検討していく。</li> </ul>
人材の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長時間保育や土曜保育の希望者増加に対応するために、人員にある程度の余裕が必要である。教職員の急な欠勤や土曜保育の振替休み、育児休業職員の代替などにも対応できるように、フリーで動ける保育教諭を増やしたい。</li> <li>・今年度と同様に、新卒採用活動を早期に開始し、優秀な人材確保に努める。</li> </ul>
教育・保育内容の改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育教諭一人一人が日々の実践を振り返りながら気づきや反省を記録に残し、それらを基に各学年団で話し合いながら教育・保育内容を改善していく。活動や園行事についても、日常の園生活に無理が生じることがないように見直す。</li> <li>・教育・保育の質の向上を目指し、公開保育形式の園内研修を実施する。様々な見方による意見を交わし、より良い教育・保育を目指す意識を園全体で高めていく。保育者間で見合ったり話し合ったりする時間の確保が課題である。</li> <li>・暑さが厳しい期間は室内での遊びや活動を充実させるなど、新たなカリキュラムを作成し実践する。運動会などの行事についても、当日までの取り組みのことを考慮して開催時期や内容を検討する必要がある。</li> </ul>

<p><b>子育て支援事業の拡充</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未就園児親子活動の「たんぽぽ」や次年度入園希望2歳児対象の「TJ教室」をできるだけ多く実施する。園庭開放は0歳児から参加可としており、入園を検討している方の施設見学も随時受け付け、子育てに関する相談にも応じる。</li> <li>・地域のニーズを把握し、入園希望の多い1・2歳児の受け入れ定員や3～5歳児の2号認定児の枠を更に増やすことは今後も検討していく。</li> <li>・施設・設備や人員配置等、園の実情に応じて「こども誰でも通園制度」の取り組み実施を検討する。</li> </ul>
<p><b>地域連携の促進</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育教諭だけでなく管理職も保・こ・幼・小の合同研修会や地区の会合などに参加し、情報交換をしたり意見を交わしたりすることで相互理解を図る。木太小学校区で作成している5歳児から小学校1年生までの「架け橋期のカリキュラム」を活用しながら、地域の保・こ・幼・小が連携できるようにしていきたい。</li> <li>・今年度開設したインスタグラムにて未就園児活動の日程等の発信をすることで、地域の未就園児親子が気軽に来園できるようにしたい。日々の保育の様子等も積極的に情報発信し、園のことを多くの人に知っていただき、地域の方々に身近に感じていただけるようにする。</li> <li>・近隣各施設と連携し、地域の高齢者との交流会などを徐々に再開していければと考えている。</li> </ul>
<p><b>自己評価・自己点検</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育・保育に関することと園運営の両面からの適切な評価・点検を行い、ホームページで公開する。PTA本部が実施する保護者アンケートの結果も園評価の一つとして参考にし、教育・保育の充実や円運営の改善等に役立てていく。</li> <li>・常勤保育教諭全員が一年間の取り組みを振り返って自己評価表を提出し、次年度の目標を立てている。非常勤教職員も含めて、それぞれの立場における目標に向けて取り組むことで園全体の教育・保育の質の向上を図りたい。</li> <li>・県と市からの監査指摘事項の他、消防点検等の指摘事項も全教職員に周知し、運営の改善に役立てる。</li> </ul>

## 5. 財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められた。